

毎号リレー形式で江田島市内で活躍する人やお店を紹介!

interview | かぞく家 ^{ためまさ} 為政 愛子 さん



(写真1) 為政夫婦の経験を生かしたアジア料理の提供を中心に、市内外さまざまなイベントに出店している。 (写真2) かぞく家ではボランティアも随時募集中。この日も、大学生のボランティアサークルが食堂の改装に協力。みんなで一緒にご飯を食べ、楽しみながら活動を行った。



ETAJIMA GoON!

エタジマゴーオン



Vol.17

大柿町・大原 かぞく家

夢は“みんなのおばあちゃん”なんです。

大柿町大原にあるかぞく家は、フウドの館長を務める為政伸彦さんと、妻の愛子さんの夫婦で運営する下宿屋。他にも、民泊やイベント出店など積極的に活動している。今回は、そんなかぞく家で『母ちゃん』として運営を支える愛子さんに、活動への思いや今後の展望について話をしてみました。

私がもらった分、返す番

大柿高校のすぐ近くにある大きな2階建ての家。元々は空き家だったこの場所を、人が交わる場所「かぞく家」として再生したのが、為政夫婦だ。「いらっしやい!」と優しい笑顔で出迎えてくれたのは、かぞく家の『母ちゃん』愛子さん。愛子さんは、大学時代に国際ボランティアサークルに入り、東南アジアさまざまな国でのボランティア活動を通して感じた「豊かさとは何か」ということを常に考えながら、伸彦さんと一緒に下宿屋を始めた。愛子さんに話を聞くと、「どうしても下宿屋をやりたいかった、というわけではないんです」とのことだった。それでも『人を受け入れる場所』を始めたのには、愛子さんの活動に大きな影響を与えた2つの体験があるという。

「1つ目は東南アジアのボランティアに行った時。私は都市部ではなく、田舎の町にボランティアに行ったのですが、毎度どこかの家族と3週間ぐらい行動を共にするんです。どこの町に行った時も、私のような見ず知らずの外国人を皆さんが温かく迎え入れてくれました。帰る頃には『もう君は家族だよ』と言ってくれて...とても感動したんです。2つ目は、江田島市に移住してからの体験。最初は沖美町に住んでいたのですが、そのタイミングで子どもが生まれて、なおかつ移住者で知り合いもないし、少し孤立しているような気がしていたんです。そんな時、近所の方々がこれまた見ず知らずの移住者を助けてくれた。子どもを見てくれたり、野菜をくれたり...この島の最初の生活でアットホームな距離感のご近所さんに恵

まれたんです」
他人だけど、家族のように扱ってくれる人たちに出会う中で、愛子さんは「私もそういう人になりたい」と思うようになった。「実は、私の夢は昔から『みんなのおばあちゃん』になることで。自分の家族みたいに誰かを受け入れることがしたかったんです。そこで思いついたのが下宿屋とか民泊とか、誰かを受け入れる場所を作ること。そこからかぞく家が生まれました」
周りの人にたくさん助けってもらった分、今度は自分が返す番。そう言って笑う愛子さんは、とても良い表情をしていた。

「ただいま」と言って 帰って来れる場所へ

かぞく家は、旗振り役を伸彦さん、総括を愛子さんといった形で、二人で協力し合いながら運営している。その事業は幅広く、民泊やイベント出店、飲食店貸切営業などさまざま。そんな中、新たに二人が挑戦するのが「子ども食堂」だ。9月末から始まったこの事業は、多世代交流や地域づくりを目的に取り組んでいくという。「子どもだけを対象にせず、家族でご飯を食べる延長線上にある場所にしたい。子育て世帯や高齢者、移住者、在留外国人...多世代・多文化、さまざまな人が誰でも家族になれる場所を作りたいんです。『同じ釜の飯を食べたらみんな家族』という言葉は私たちがよく使っているのですが、同じ空間で一緒にご飯を食べるだけで距離が縮まる。そんな感覚を、皆さんにも味わってほしいんですよね。だから、子ども食堂というよりは『地域食堂』に近いかな?」
かぞく家にみんなで集まって、ご飯を

食べる時「ご飯が美味しい」「またかぞく家に来たいな」などと言われたらとても嬉しいと話す愛子さん。今、家族の一員として一緒に暮らす偏食がちな下宿人が、愛子さんの作ったご飯を美味しいと自ら進んで食べてくれた時は、思わず「よっしゃ!」と心の中で大喜びをするなど、みんなの『母ちゃん』として日々活動を楽しんでいるという。

最後に、かぞく家の母ちゃんとして、今後の目標を聞いてみると、とても壮大かつ愛子さんらしい答えが返ってきた。「私は学生時代の経験もあり、東南アジアがすごく好き。なので、普段は『えたじま日本語クラブ』の活動もしているのですが、東南アジアから島に働きに来た人たちが、かぞく家でご飯を食べたり、コミュニケーションを取る中で、ここを第2の家みたいにしてほしいなど。最終的には『日本に働きに行くなら江田島市がいいよ』なんて言ってもらえるようなきっかけの場所になりたいんです。それは外国人だけに限らず、地域の人や移住者の方も同じ。楽しむなら、人と繋がりたいなら江田島市がおすすめです。だよってみんなが言ってくれるような場所。そうやって、『家族』を増やしていきたいな。それに、これは大きすぎるかもしれないけど、ゆくゆくは世界中に家族ができたら素敵ですよ。私たちは、多世代・多国籍の人たちと食卓を囲んで楽しくご飯を食べることが世界平和につながるって考えているのですが、かぞく家から繋がった家族が世界中にいて、みんなが『ただいま』って言って帰って来れるような、そんな場所にしていきたくて思っています」

誰もが気軽に帰って来れる場所、かぞく家。もしあなたが島に『帰る場所』が無いと感じているなら、かぞく家があるあなたの居場所になってくれるかもしれない。

みんなで作り上げる『居場所』



「おおばらかぞくや食堂」オープンします!
為政夫婦が新たに挑む事業『おおばらかぞくや食堂』が9月末にオープン。みんなが集まるこの食堂で、多世代・多文化交流を楽しみましょう! ことも100円~/おとな300円~

※食堂に関してのご相談やお問い合わせはホームページから
※おおばらかぞくや食堂では運営維持のため、随時食材などの寄付を受け付けています。詳細はお問い合わせください



かぞく家
江田島市大柿町大原 1110-1
おおばらかぞくや食堂や宿泊の詳細、イベント出店など、お問い合わせはホームページから

かぞく家